

NETISに登録

東宏「トドラミツキーカバー」

土木建設資材総合商社の東宏(本社・札幌)は、自社で開発した「トドラミツキーカバー」をトラック・アジテータ保温カバー(トドラミツキー養生カバー)として、国土交通省の新技术情報提供システム(NETIS)に登録した。ミキサー車のドラム部分を2層式のシート材で被覆することで移送中の生コン品質管理に配慮し、冬季はドラムをすっぽりと包んで冷気からガード。夏季はカバー前部に隙間を作り、走行中の冷風をシート層に取り入れ、ドラム部に送風する。

生コン運送時の温度を管理

トドラミツキーカバーは、アジテータ車による生コン運送時の温度変化やスランプ低下を抑える養生シート。一般的に運送中の生コンの温度低下は、練り上がり最初の30分については、荷下ろし時のコンクリート温度と周囲の気温の差で30%程

度、その後は15%といわれている。

同社では、この製品の機能を外気温がマイナス6度、運送時間が60分、練り上がり温度が16度の場合、温度低下を2・7度抑えられると試算。運転時間は同じで、外気温がプラス3・3度、練り上がり温度が17度だと、低下温度は3度と説明する。

製品はカバー、夏季に外す前部シート、取り付け

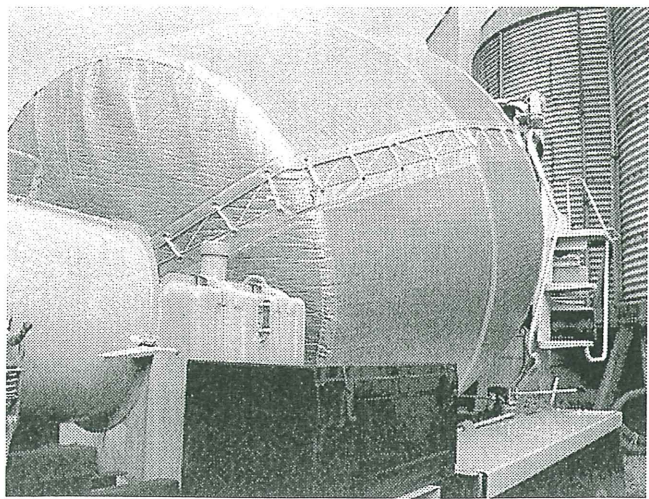
けバンドで構成する。カバーは防寒マットとコアマットの2層構造で、防寒マットは発泡ポリスチレンと両面ポリエチレンシートで成り厚さは約5mm。コアマットはポリエチレン樹脂製で厚みが15mm。両マット間には15mm程度の空隙を設けている点がポイントだ。

同社は「ドラム部を密閉すると塗装膜が影響して、表層に結露のような多数のプリスター(塗

の技術提案に活用されるなど評価を受けてきたが、一層の普及を目指し、NETISに6月16日付で登録した。

各種ミキサー車の形式に合わせた部材を用意。シートは、1台のアジテータ車に2人がかりで、1時間程度で取り付け可能という。3～5年の耐久性を持つ。

同社は、西松建設と共同開発した覆工コンクリート養生工法「トンネルバルーン」で05年に日経BP技術賞を受賞するなど、製品開発に力を注ぎ、現在は8技術で特許を持つ。「今後も毎年、新製品を開発していきたい」と意欲を示し、建設業が差別化のツールとできる製品を地元密着型で具現化する考えだ。



ドラム部分を覆う2層式のカバー